

# 第 24 回「自然とふれあおう！わんぱく KIDS」

IN 宇佐美

## 報 告 書

2025 年 9 月 1 日

主 催

特定非営利活動法人 シンク・イー

### 目 次

理事長 ご挨拶 > 1

実施概要 > 2

組織・役割 / 会計報告 > 3

5日間のプログラムのポイント > 4

5日間の様子 > 5～9

スタッフ及びリーダー 所感 > 10～11

協賛 > 12



## 理事長 ご挨拶

日頃より、私どもの活動にご理解・ご協力ありがとうございます。

本年も「自然とふれあおう！わんぱく KIDS」を無事開催することができました。

関係各位に深く感謝申し上げます。

直前まで台風進路が心配でしたが、全日程雨に降られる事も無く、暑さに多少バテ気味となり休憩した子はいましたが、病人けが人も特になく、予定のプログラムを実施することができました。

酷暑を考慮し、裏山散策を気温の上昇する前までに実施するなど行程を変更し、以前よりゆとりあるプログラム配置といたしました。

本年より、区と学園給食委託業者との契約関係により委託業者の給食調理ができなくなったため、東京にあるオーガニック給食弁当業者の株式会社オーガニック・キッチンのご協力で給食調理をしていただきました。キャンプ中も食材はできうる限りオーガニックで静岡県産の食材を使用頂きました。子どもたちの評判も大変良かったです。この場をお借りして株式会社オーガニック・キッチン様に感謝申し上げます。

子どもは、自分の考えを持ち、他者の考えを認め、社会で率先して役割を担うことのできる自立した人々が協力する社会「自立型共生社会」の実現を理念に活動しています。

本キャンプは、自然とのふれあいにより五感を研ぎ、人とのふれあいにより対話力を養うことを目的に実施しています。

地球規模での自然災害の増加や不安定な国際社会など、次の社会を担う子どもたちの環境は厳しいものと思われませんが、自ら道を切り拓き、より良い社会を築き幸せになってほしいと切に願います。今後とも、ご支援の程よろしく願いいたします。

特定非営利活動法人 シンク・イー 理事長 喜多 隆正

## 実施概要

構成団体 主催 特定非営利活動法人 シンク・イー  
後援 中央区教育委員会  
特定非営利活動法人 東京中央ネット  
協力 中央区立宇佐美学園  
公益社団法人 東京青年会議所 中央区委員会  
宇佐美江戸城石丁場遺跡・伊豆古道保存会  
株式会社オーガニック・キッチン

主催団体 理念 「自立型共生社会の実現」  
事業名称 第24回「自然とふれあおう！ わんぱく KIDS」  
事業目的 青少年の健全育成・ボランティアリーダーの育成  
事業コンセプト 「自分でできることは自分です。できないことは助け合う」

開催日程 2025年8月2日(土)から8月6日(水) 4泊5日  
開催拠点 中央区立宇佐美学園とその周辺地域および小田原・湯河原地域

事業概要 子ども：3～6年生男女約8名 リーダー：約2名  
合計約10名で1つの班を構成 全9班  
班別行動を基本とし、海・山・川などの豊かな自然環境の中で各アクティビティを体験する組織キャンプ

参加者 中央区在住・在校の児童3～6年生 計71名（応募者数：226名）  
ボランティア人員 中高生リーダー 1名 大学生リーダー 22名  
社会人・リーダーOB 5名 NPOスタッフ 2名  
宇佐美地域の方 3名 干物づくり指導 1名  
調理スタッフ 2名 施設事前準備 8名

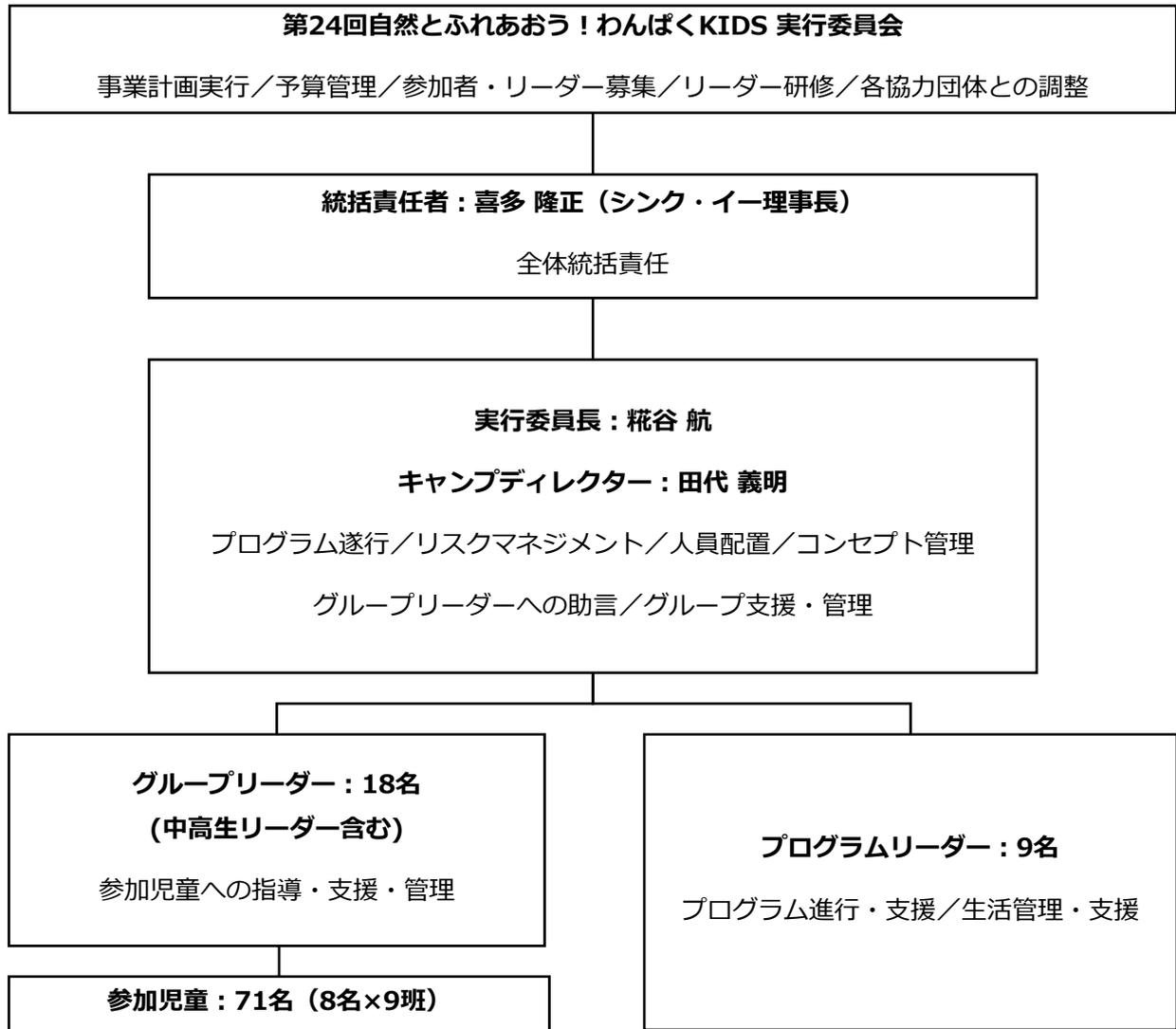
問い合わせ先 特定非営利活動法人 シンク・イー  
E-MAIL : [2024wanpakukids@gmail.com](mailto:2024wanpakukids@gmail.com)

写真&報告書 URL : <http://www.tokyochuo.net/meeting/kids/jigyuu/wanpaku2/index.html>  
※写真掲載は、NPO 法人東京中央ネットに協力いただいております  
(掲載時期：9～10月頃を予定)

QRコードはこちら



## 組織・役割



## 5日間のプログラムのポイント

### ■わんぱく KIDS の約束

- 1、自分でできることは自分でしよう！
- 2、ひとりでできないことは助け合おう！
- 3、あいさつをしよう！
- 4、身の回りはきれいにしておこう！
- 5、生き物はたいせつにしよう！
- 6、リーダーになんでも相談しよう！

### ■方針

生活重視（あいさつ・清掃・整理整頓・履物をそろえる・身体をよく拭いてから浴室を出るなど）

### ■清掃・整理整頓

毎朝清掃と荷物整理をし、身の回りを自ら正す経験から生活面での自立への気づきを促す

### ■食事

手をつける前に自分の食事量を考慮し、同じテーブルのお友達とシェアをし、残さないようにする  
嫌いなものは目標量を決めて食べる努力をする

### ■班旗づくり

班のシンボルとなる旗を作り、班員としての意識を高める

### ■山・川・海での自然体験

都会で出来ない体験により自然への理解を深める  
自然での遊びを通じて常にチャレンジをし、成功・失敗体験をする

### ■野外調理・ひものづくり(食育・食を通した健康や生命に関する教育)

他の生き物の命をもらって生きていることへの気づき  
家族をはじめ多くの人たちの労力があって食事ができることへの意識付け

### ■班別自由プログラムの計画と実施

班ごとに決めたスローガン達成のため、プログラムを話し合い計画する  
自己分析、集団の意思決定、自立への気づき  
自己・他者を大切にすることの重要性の認識

### ■江戸城石丁場遺跡散策

身近な地域からの歴史理解（中央区と宇佐美のつながりなど）

### ■キャンプファイヤーとふりかえり

全体の一体感と達成感を高め、キャンプの収束とする

## 5日間の様子

	1日目 (8月2日)
朝	T-CAT 集合・出発 (7:30) トイレ休憩 (海老名 S.A) 湯河原幕山公園着 川遊び ①
昼	昼食 (弁当) 湯河原幕山公園出発 宇佐美学園着 ② 入所式 (宇佐美学園中庭にて) オリエンテーション レクリエーション ③  入浴 夕食 ④
夜	班旗づくり ⑤ 消灯 (21:00) リーダーミーティング

### ① 湯河原にて川遊び



### ② 学園まで自分の荷物を運びました!



### ③ 体育館にてレクリエーション



### ④ 食堂にて班ごとに夕食



### ⑤ 班の象徴となる旗作り



2日目 (8月3日)	
朝	起床 朝のつどい (7:00) ① 朝食 清掃  宇佐美海岸着 磯浜あそび ②③
昼	昼食 (弁当) 磯浜あそび  宇佐美学園着 入浴  夕食
夜	宇佐美の歴史・石丁場遺跡講演 ④  消灯 ⑤ リーダーミーティング

① 朝からグラウンドにて運動！



② 晴天に恵まれ海水浴日和でした！



③ 磯では生物観察



④ 寝る前はみんなでまったり



⑤ 翌日の裏山備えて講演で座学



3日目 (8月4日)	
朝	起床 朝のつどい 朝食 清掃 ひものづくり ①
昼	昼食 (弁当) 班別行動 プール/発表会準備/体育館遊び等 ②③ 入浴 炊事体験(炊飯/ひもの/味噌汁)④ 夕食 ⑤
夜	消灯 リーダーミーティング

① アジのひらきに挑戦!



② 楽しく安全にプール遊び



③ 体育館でドッジボール



④ みんなで夕飯作り!



⑤ 自分で捌いた干物とごはんとお味噌汁



	4日目(8月5日)
朝	起床 朝のつどい 朝食 清掃 裏山遺跡散策 ① 体育館遊び/発表会練習等
	昼食(弁当) 班別行動 プール/体育館遊び/食材買い出し /発表会練習等 炊事体験(炊飯/カレー) ② 入浴 夕食 ③
夜	発表会 ④ キャンドルファイヤー ⑤ 消灯 リーダーミーティング

① 裏山遺跡散策！最後に記念写真



② 夕飯のカレー作り



③ 各班オリジナルのカレー



④ 各班、4日間の思い出を発表！



⑤ 最後の夜はしんみりキャンドルファイヤー



5日目 (8月6日)	
朝	起床 退所準備 朝食 ① 大掃除  宇佐美学園出発 ②
昼	石垣山一夜城歴史公園着 自由行動 ③④  昼食 (弁当)  石垣山一夜城歴史公園出発  トイレ休憩 (海老名 SA)
夜	T-CAT 到着・解散 (16:00) ⑤⑥

① 最後の食堂ご飯！



② 自分の荷物を学園下のバスまで



③ 最後のプログラム！最後まで全力で！



④ 最後はみんなで集合写真！



⑤ T-CAT に無事到着！



⑥ 5日間一緒に過ごしたリーダーと記念写真



## スタッフ及びリーダー 所感

### <実行委員長：糀谷 航>

今年度、実行委員長を担当しました糀谷航です。気候変動により天候が変わりやすい近年、また気温の上昇に伴う熱中症のリスク高や感染症の流行に伴う健康面のリスク高の中、本年度は全日天候に恵まれ、大きな事故もなく過ごすことができました。4泊5日間安全に過ごすことができたのは、中央区・宇佐美学園・伊東市とその周辺地域の関係者各位をはじめ、キャンプリーターやスタッフのみんな、そしてなによりも私どもの活動にご賛同いただいた保護者と参加者であるお子様、皆様のご理解とご支援あっての事業だと改めて実感いたしました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

これからも当事業は当 NPO 法人の理念である「自立型共生社会の実現」と当事業のコンセプトである「自分でできることは自分でする。できないことは助け合う」を軸に、変わりゆく時代に順応しながら事業を継続していく所存でございます。今後とも当団体及び当事業にご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

### <プログラムリーダー：大島 菜月 (大学1年)>

プログラムリーダーを担当しました、大島菜月です。今回が初めての PL ですが、「自分でできることは自分でする！できないことは助け合う！」というわんぱく KIDS のコンセプトのもと、子どもたちが 5 日間を無事に、そして有意義に過ごせたことが何より嬉しく思います。

わんぱく KIDS が毎年開催できるのは、参加してくれる沢山の子どもたちがいてこそですが、それだけではありません。NPO 法人シンク・イーを運営している喜多さんをはじめ、中央区や宇佐美学園の職員の皆さま、そして利益を度外視して動いてくださる多くの方々の支えがあってこそです。おかげさまで、私自身もとても有意義な経験をさせていただきました。

小学生の頃は私も参加者として楽しむだけでしたが、運営側にまわったことで、多くの方の尽力によってこの活動が成り立っていることを知り、そのありがたさを強く感じました。この経験を将来、次の世代へと繋いでいけるよう、来年も尽力できたらと思います。

わんぱく KIDS で得た学びを、これからの活動や日常生活にも活かしていきたいと思います。また来年、皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

### <プログラムリーダー：志田 萌 (大学3年)>

今年で 3 回目の参加となり、昨年に続いてプログラムリーダーを務めました、したももです。今年度は天候に恵まれ、子どもたちも体調を大きく崩すことなく、すべてのプログラムを順調に終えることができました。

初めは少し緊張やためらいを見せていた子も、初日のバスでの交流や川遊びを通して、すぐに笑顔で打ち解けていきました。さまざまなアクティビティの中で、「自分でできることは自分でする。できないことは助け合う」というわんぱく KIDS のコンセプトが表れている姿を見ることができ、とても嬉しく思いました。

私自身も元宇佐美っ子として、学園に帰りわんぱくの皆や先生方に会うことを本当に楽しみにしていました。今年もわんぱくの仲間たちと 4 泊 5 日を共に過ごし、多くの思い出を重ねられたことに感謝しています。今年初めて参加した方にとってもあの場所が大切な存在になっていれば幸いです。

来年またお会いできることを楽しみにしております！

### <3班グループリーダー：神農 瑛士（大学2年）>

今回3班のグループリーダーを務めさせていただきました、神農瑛士です。去年に引き続き、2回目の参加です。去年のわんぱく Kids では初日からケガをしたり、体調を崩して思うように動けなかったりと、リーダーとしてとても不甲斐ない結果となってしまいました。ですが今年のわんぱく Kids では、その反省を活かして自分なりに気を付けられたおかげか、今年はケガなく無事に合宿を終えることができました。ですが自分がケガなく、体調を崩すことなく終わられたのは、同じ班のもう一人のリーダーや他の班の支え等があったからこそなので、リーダーの方々にはとても感謝しています。

今年は去年よりも子どもたちと接する時間が多く取れたこともあり、去年よりも子どもたちの成長が目に見えて感じられました。初日はまだ何をしたらよいのか子どもたちもわからないので、自分たちリーダーが引っ張りましたが2日目、3日目と日を重ねていくうちに「わたしがやる!」「じぶんがこれをやりたい!」と自ら進んで行動していくようになり、わんぱく KIDS のコンセプトである「自分でできることは自分です。できないことは助け合う。」をしっかりと達成できたのではないかなと思います。前述の通り、自分は今年で2回目の参加だったので、去年同じ班になった子が今年も同じ班になって「あ!先生だ!」と覚えていてくれた時はとても嬉しい気持ちになりました。一年越しにあったその子は去年から見違えるほどしっかりといて、一人勝手に成長を感じていました。

自分自身、今年のわんぱく KIDS は良い結果に終わったなと思っていますが、それでも課題点はいくつも見られたので、もし可能なら来年も参加してもっと周りに配慮して行動し、少しでもより良いわんぱく Kids を実現していけたらなと思っています。最後に、貴重な4泊5日を体験させていただき本当にありがとうございました。

### <4班グループリーダー：山本 琉璃（大学2年）>

4班のリーダーを務めさせていただいた山本琉璃です。

私は、今回初めてわんぱく KIDS に参加しました。参加する前は、子供との関わり方がよく分かっておらず、楽しみより不安が勝っていました。初日はコミュニケーションを上手く取れず、一人で不安になっていました。しかし日を追う事に子供ともリーダーともしっかりコミュニケーションを取ることができ、最終日には楽しかった、終わるのが寂しいという想いになりました。

わんぱく KIDS のコンセプトである「自分で出来ることは自分でやる、できないことは助け合う」をどうやって子供たちにやってもらうかを考え、行動に移すことがとても難しく、子供が何が出来て何が出来ないか、自分はどうサポートすべきかの判断がとても難しかったです。また班の中でもリーダー気質の子と自分から行動できない子の衝突やヤンチャな男の子が他の子と喧嘩になりそうになることも何度かあり、最終日まで仲良くできるのか、皆が楽しめているのかと不安に思う事もありました。しかし、子供たちが書くしおりでは助け合えたこと、できるようになったことが毎日変わっており、日に日にできることが増えていっていました。そんな子供たちの姿を見て「子供ってすごいな」「私自身も頑張らないと」と思うようになりました。

4班の子はやりたい事は積極的に行動してくれたので、カレーを作りの時の役割分担が偏らないようにするのが大変でした。でも、その積極的さのおかげで作業をスムーズに行うことができ、いちばん美味しいと褒めてもらえるご飯を作ることができたのだと思います。いろいろあって、とても大変な4泊5日だったけど、子供の成長の速さを実感し、それを間近で感じることができ、とても貴重な経験をさせていただけたのだなと思いました。ありがとうございました。

## 協賛

三菱地所ホテル&リゾート(株)

(株)建設技術研究所

(ロイヤルパークホテル)

## 物品協賛・協力

(株)オーガニック・キッチン

小坂こども元気クリニック

(公社) 東京青年会議所 中央区委員会

(株)ネオ・コミュニケーションズ

天麩羅 天音

夕チバナアーツ管理(株)

古屋法律事務所

(株)小川商会

富江 裕子

半澤 勝己

高松建設(株)

(株)サヨカ

朋和商事(株)

(株)サプル

(株)中央コミュニティー

飯塚 宜広

下目黒歯科内科

前田 千晴

大森造園建設(株)

(株)日本ワークサービス

(株)セントラルエステート

(※順不同 敬称略)

<当報告書に関するお問い合わせ先>

特定非営利活動法人 シンク・イー

E-mail : [2025wanpakukids@gmail.com](mailto:2025wanpakukids@gmail.com)